

# 第102回町史編集委員会 会議録

日時 平成20年7月2日(水)午後3時  
場所 寒川総合図書館 会議室  
出席 圭室、木村、大口委員  
小俣文書館長 高木

## 委員長あいさつ

## 議 題

### (1)平成19年度事業結果報告

本年9月に発行する予定の『寒川文書館年報第1号 平成18・19年度』の原稿を配布し、19年度の記述を中心に要点を紹介することで、事業結果報告に代えた。これに対する質疑は特に出なかった。

### (2)平成20年度刊行物について

町史研究第22号の構成について、資料2のとおり事務局案を提示した。

これに対しする討議結果は次のとおりであった。

- ・特集を「相模国と高野聖2」とすることで了承。
- ・メインの記事は町史講座の講演記録とする。
- ・横須賀市史の動向を、横須賀より先に寒川で活字にすべきではないので、大口委員の部分は削除する。
- ・翻刻する廻檀日並は、川東だけで52ページの見込みとなるが、高室院の檀家はむしろ相模川の西側に集中しているので、1点だけある川西の日並ははずせない。68ページにまで膨らんでしまうが、ぜひ載せておきたい。その他の武州のものや明治時代のものは掲載を見送る。
- ・その他の記事については原案どおりで了承。

文書館だより第4号・5号の構成について、資料3のとおり事務局案を提示した。これに対する質疑は特になく、了承された。

### (3)平成20年度町史講座について

講師は圭室委員、テーマは高野聖の廻檀、日時は11月8日(土)午後2時からとなった。

#### (4)その他

##### 会議の傍聴および会議録の公開について

- ・ 前回の会議では、編集委員会の席上、プライバシーに踏み込んだ個別の古文書等について討議する恐れもあるので、傍聴は認めず、結果のみをインターネットで公開することになった。その旨を担当課に報告したところ、議事の一部にそのような要素が含まれることは理解できるが、議事のすべてが非公開に値する内容ではないはずなので、再検討してもらいたいとの要請があった。そのため、改めてこの問題について諮った。
- ・ 討議の結果、事業結果報告や事業計画案など、文書館運営審議会でも審議し、プライバシー等に抵触しないものは、公開を拒む理由がないので、傍聴を認めることになった。抵触する恐れのある議題になったときだけ、傍聴人に退席してもらおうという対応をとるが、細かなルールについては、他の審議会等の動向を調べながら定めていくことになった。

##### 児玉翁を偲ぶ会について

- ・ 6月15日、児玉幸多先生の一年忌の会に圭室・大口委員が出席したので、その報告があった。
- ・ 80名ほどの出席者には、追悼文集が配られた。これは各雑誌等に載った先生を偲ぶ文を転載した90ページほどの冊子で、編集は学習院大学史料館が担当。『寒川町史研究』第21号に載った2本の座談会も収録されていた。

##### 次回会議について

- ・ 11月ごろ開催したい。日程調整はまた文書等をお願いしたい。